

科目名	キリスト教倫理特論
科目責任者	永井英司
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践および自らの行動に反映することができる
科目概要	聖書が教える倫理的な教えを取り上げながら、授業を進めていきます。講義が中心になります。全 15 回の講義ですが、前半は旧約聖書「モーセ五書」から倫理的な教えを学びます。後半は、新約聖書にある「パウロ書簡」から倫理的な教えを学びます。授業では、聖書を読み合い、意見交換をしながら進めていきます。
到達目標	聖書の中にあるキリスト教倫理思想の根底に流れているものを習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 聖書について 第 2 回：聖書の世界観について ヘレニズムとヘブライズム 第 3 回：創世記第 1 章～3 章から 神（創造主）と人間（被造物） 第 4 回：創世記第 1 章～3 章から 罪と死 十戒（出エジプト 20：1～ 申命記 5：1～） 第 5 回：医学的な問題、「血と命」に関する律法の記述について レビ記 17：10～ 申命記 12：23～ 第 6 回：福祉的な問題、人間の罪、弱さなどに関する律法の記述について レビ記 19：11～ （箴言 28：21） 第 7 回：人を愛する レビ記 19：18～ ルツ記 2：1～ 第 8 回：ヨベルの年について レビ記 25：1～ 第 9 回：見ない振りをしてはならない 申命記 10：17～ 15：7～ 第 10 回：イエス・キリストについて 聖隷学園の礎 ヨハネ 13：1～15 洗足のイエス 第 11 回：イエス・キリストの教え 「最も重要な掟」マルコ 12：28～34 第 12 回：タリオの法について 「目には目、歯には歯」出エジプト記 21：24～25 第 13 回：姦通の女について 「あなたを罪に定めない」ヨハネによる福音書 8：1～11 第 14 回：パウロについて 「目からうろこのようなものが落ち」使徒言行録 9：1～19 22：1～21 第 15 回：まとめ 律法から福音へ 「律法全体は隣人愛の一句によって全うされる」ガラテヤ 5：21

学修方法	講義形式を主にして進めます。
評価方法	レポート提出（100％）によって評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行
参考書	『キリスト教倫理入門』小田島嘉久 ヨルダン社
事前・事後学修	聖書の通読 キリスト教関連の文献や辞書の活用
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。 時間等については初回の授業で説明します。

科目名	保健医療倫理学特論																																																	
科目責任者	大石 ふみ子																																																	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋																																																	
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践および自らの行動に反映することができる																																																	
科目概要	保健医療福祉における生命倫理の概念を理解するとともに倫理的問題解決技法等を身につけることを通して倫理的判断能力および倫理的調整能力を修得する。																																																	
到達目標	1. 生命倫理の概念を保健医療福祉の観点から具体的に理解することができる。 2. 倫理上の基本原則、倫理綱領、患者の権利を理解し、これらに含まれる基本的概念を具体化できる。 3. 保健医療福祉の実践および研究における倫理的問題・葛藤について問題解決技法等を活用して倫理的判断、倫理的調整を導くことができる。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th><回></th><th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務</td><td>小島操子</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他）</td><td>小島操子</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①）</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②）</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>人を対象とする研究における倫理（1） 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について</td><td>本田彰子</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>人を対象とする研究における倫理（2） 研究者としての責務/APRIN e ラーニングプログラム</td><td>本田彰子</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （1）脳死・臓器移植</td><td>山本清二</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （2）出生前診断</td><td>佐藤直美</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （1）インフォームド・コンセント</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （2）アドボカシー</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （3）Quality of life</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （4）プライバシー</td><td>大石ふみ子</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>臨床研究等における倫理申請の流れ</td><td>大原重洋</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>倫理申請書の構成と作成の実際</td><td>大原重洋</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>倫理原則と職能団体の倫理綱領</td><td>大原重洋</td></tr> </tbody> </table>		<回>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第1回	生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務	小島操子	第2回	倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他）	小島操子	第3回	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①）	大石ふみ子	第4回	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②）	大石ふみ子	第5回	人を対象とする研究における倫理（1） 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について	本田彰子	第6回	人を対象とする研究における倫理（2） 研究者としての責務/APRIN e ラーニングプログラム	本田彰子	第7回	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （1）脳死・臓器移植	山本清二	第8回	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （2）出生前診断	佐藤直美	第9回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （1）インフォームド・コンセント	大石ふみ子	第10回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （2）アドボカシー	大石ふみ子	第11回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （3）Quality of life	大石ふみ子	第12回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （4）プライバシー	大石ふみ子	第13回	臨床研究等における倫理申請の流れ	大原重洋	第14回	倫理申請書の構成と作成の実際	大原重洋	第15回	倫理原則と職能団体の倫理綱領	大原重洋
<回>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																																																
第1回	生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務	小島操子																																																
第2回	倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他）	小島操子																																																
第3回	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①）	大石ふみ子																																																
第4回	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②）	大石ふみ子																																																
第5回	人を対象とする研究における倫理（1） 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について	本田彰子																																																
第6回	人を対象とする研究における倫理（2） 研究者としての責務/APRIN e ラーニングプログラム	本田彰子																																																
第7回	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （1）脳死・臓器移植	山本清二																																																
第8回	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （2）出生前診断	佐藤直美																																																
第9回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （1）インフォームド・コンセント	大石ふみ子																																																
第10回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （2）アドボカシー	大石ふみ子																																																
第11回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （3）Quality of life	大石ふみ子																																																
第12回	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （4）プライバシー	大石ふみ子																																																
第13回	臨床研究等における倫理申請の流れ	大原重洋																																																
第14回	倫理申請書の構成と作成の実際	大原重洋																																																
第15回	倫理原則と職能団体の倫理綱領	大原重洋																																																

学修方法	講義、演習およびテーマにそった学生のプレゼンテーションを元に討議形式ですすめます。日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法を学修します。感性を研ぎ澄まして日頃の実践をふりかえり、クラスで討議する事例を持って参加し、講義後は学修内容をふり返る。
評価方法	1. 授業資料の準備とプレゼンテーション、討議への参加状況 60% 2. 提出物、課題レポート 40%
課題に対するフィードバック	1. 授業資料の準備は予め担当教員に相談し、課題のフィードバックをプレゼンテーション前に行う。 2. 討議の内容についてはクラス中に課題が明確になるようファシリテートする。
指定図書	なし
参考書	1. 砂屋敷忠他編『医療・保健専門職の倫理テキスト』2000、医療科学社 2. ケースで学ぶ医療福祉の倫理 [編集] 菊井和子、大林雅之、山口三重子、斎藤信也 医学書院 3. Jonsen・A・R 他、赤林朗他訳『臨床倫理学』2006、新興医学出版社 4. トンプソン・J・E 他、ケイコ・イマイ・キン他監訳『看護倫理のための意思決定 10 のステップ』2004、日本看護協会出版会
事前・事後学修	これまでの倫理に関わる学修を振り返り、各課題において自分なりの「倫理」「倫理観」「倫理上の問題」に関する考えや、クラスで討議する事例を持ってクラスに臨んでください。また、日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法についてクラス後に反復して考える。感性を研ぎ澄まして日頃の実践を振り返る。(事前・事後学修約 40 分)
オフィスアワー	大石：1219 研究室、水曜日 12:00～13:00 fumiko-o@seirei.ac.jp 臨地看護学実習などの予定により変更の可能性があるため、事前にメールで予定の確認を取ってください。 大原：3405 研究室 水曜日：8:50～10:00 shigehiro-o@seirei.ac.jp

科目名	健康増進・医療経済政策特論
科目責任者	西川浩昭
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(3) 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる (6) 他の専門職者、研究者や学生との連携・協働し、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組むことができる
科目概要	健康に関連する問題を多面的にとらえることを目的として、問題の捉え方、問題の整理方法、問題を解決する能力を学修することを目的とする。本科目で扱う内容は変化が著しいという特徴があるが、比較的新しい内容を解説している、集中講義録を輪読し、理解を深める。
到達目標	1 健康増進（ヘルスプロモーション）、医療政策について理解し、その概要について説明できる。 2 我が国の医療費をはじめとする医療経済における問題を適正に捉え、分析、評価できる。 3 わが国の医療政策の問題について、総合的に評価できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 オリエンテーション 第2回～第15回 以下の各問題についてのプレゼンテーションとディスカッション 第2回 保健・医療政策の歴史的変遷① 第3回 保健・医療政策の歴史的変遷② 第4回 社会保障制度改革① 第5回 社会保障制度改革② 第6回 地域医療構想 第7回 医療・介護提供体制 第8回 医療・福祉財政 第9回 医療計画 第10回 医療の質 第11回 我が国におけるプライマリ・ケア 第12回 政策決定のプロセス 第13回 政策評価 第14回 H-PAC(Health Policy Action Community, 医療政策実践コミュニティ) 第15回 医療・政策におけるリーダーシップ 上記の第2回～第15回のテーマは、履修者の予定・希望を踏まえて決定します。

学修方法	第1回は講義、第2回～第15回は受講者による発表と質疑応答、討論です。受講者数にもよりますが、1人当たり3～5回担当してもらうことになると思います。 遠隔授業の実施予定はありません。
評価方法	授業における成果 100%（発表 50%、質疑応答 25%、まとめレポート 25%）
課題に対するフィードバック	発表、質問に対する回答、コメントします。
指定図書	東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット、医療政策集中講義—医療を動かす戦略と実践—、医学書院 2015
参考書	大内講一 やさしい医療経済学 第2版、勁草書店 橋本英樹、他編、医療経済学講義 補訂版、東京大学出版会 西村周三、他編、講座 医療経済・政策学 全6巻、勁草書房 その他、世界保健機関や厚生労働省のホームページのサイトなど。
事前・事後学修	事前学修： 第1回は不要です。第2～15回はプレゼンテーションの担当の場合約5～6時間、担当で無い場合でも、指定図書の当日発表される部分に目を通して置いて下さい。 事後学修： 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望めます。各人の必要に応じて学修してください。目安の時間は各回約60分（30～90分）です。
オフィスアワー	西川浩昭（1620 研究室） E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	臨床疫学特論 -EBM 実践入門-
科目責任者	西川浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら探索し、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる
科目概要	EBM(Evidence Based Medicine 科学的根拠に基づく医療)とは「入手可能な範囲で最も信頼できる根拠(質の高いエビデンス)を把握したうえで、理に適った医療を行うこと、あるいはこれを行うための一連の行動指針」である。この一連の過程を遂行するためには、データベースへアクセスして目的とする文献を効率よく探し出す能力(コンピュータリテラシー)、文献を吟味できる能力(臨床疫学、生物統計学の知識)が必須となる。 これらのうち、この科目では臨床疫学を中心に学修する。臨床疫学の名著とされる Fletcher の Clinical Epidemiology が和訳されたので、これを輪読する。受講者が内容をまとめてプレゼンテーションを行い、他の参加者との質疑応答、討論を行なう。
到達目標	1. 疾病の頻度を測定する方法を学習する。 2. 疾病の原因を特定する方法を理解する。 3. 治療の有効性を評価する方法を学ぶ。 4. 疾病の予後を予知する方法を学習する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 オリエンテーション、序論 第2回 頻度 第3回 異常 第4回 リスク1ー基本原理 第5回 リスク2ー疾病への曝露 第6回 リスク3ー疾病から曝露へ 第7回 予後 第8回 診断 第9回 治療 第10回 予防 第11回 偶然性 第12回 原因 第13回 エビデンスの要約 第14回 知識管理 第15回 効果測定、まとめ

学修方法	第2回～第15回の各回は講義と演習の組み合わせで、学生による発表が課されます。遠隔授業の実施予定はありません。
評価方法	授業における成果 100%（発表 50%、質問に対する回答 30%、まとめのレポート 20%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの内容に関して補足説明、解説を行います。
指定図書	Fletcher RH 他 著 福井次矢 訳 臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版. メディカル・サイエンス・インターナショナル または、Fletcher RH, et al. Clinical Epidemiology The Essentials, Lippincott Williams & Wilkins
参考書	Miquel Porta 編 日本疫学会 訳 疫学辞典 第5版 日本公衆衛生協会 柳川洋 編 疫学マニュアル 第7版 南山堂
事前・事後学修	学部レベルの疫学の知識が必須となります。これについては各自で学習してください。 事前学修は指定図書の自己学習です（標準的な学力を備えた学生でプレゼンテーションの担当の場合約5～6時間、担当で無い場合でも、指定図書の当日発表される部分に目を通して置いて下さい）。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。
オフィスアワー	西川浩昭（1620 研究室） E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	実験的研究法
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春セメスター
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	実験的研究法の具体的な展開方法を理解するとともに、研究論文のクリティーク方法を学修する。
到達目標	1. 実験的研究方法を学び、修士研究の計画を立てることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：実験研究のすすめ方1：総論 第3回：実験研究のすすめ方2：文献レビュー 第4回：実験研究のすすめ方3：文献レビュー ※文献レビューでは、受講者に興味ある分野における論文の文献抄読（英語論文）を行ってもらい、研究方法などについて批判的に討論することで、実験研究方法について学ぶ。 第5回：研究デザインと統計分析1 第6回：研究デザインと統計分析2 第7回：研究デザインと統計分析3 第8回：研究デザインと統計分析4 第9回：実験研究の検証方法と結果の読み取り 筋電図を用いて実験方法と結果の読み取りについて学ぶ 第10回：実験的研究法の実際その1 筋力トレーニング理論と介入効果について学ぶ1 第11回：実験的研究法の実際その2 筋力トレーニング理論と介入効果について学ぶ2 第12回：実験的研究法の実際その3 福祉工学領域における実験方法について学ぶ1 第13回：実験的研究法の実際その4 福祉工学領域における実験方法について学ぶ2 第14回：実験的研究法の実際その5 発達領域におけるデータ収集と分析について学ぶ 第15回：実験的研究法の実際その6 発話に関連するデータの収集と分析について学ぶ ※第10回から15回は、実験的研究における信頼性、妥当性の測定方法について学ぶ。 <担当教員名> 矢倉千昭 矢倉千昭 吉本好延 吉本好延 西川浩昭 西川浩昭 西川浩昭 西川浩昭 根地嶋誠 安田智洋 安田智洋 大川井宏明 大川井宏明 伊藤信寿 谷 哲夫

学修方法	講義、課題発表とグループ討議、実習などの授業が行われます。
評価方法	プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。
指定図書	なし
参考書	適宜紹介する
事前・事後学修	実験的研究についての課題、また文献抄読の課題、発表の準備が必要です。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	社会調査特論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら探索し、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会調査やヒューマンサービスにおける研究は、ある問題意識のもとに設定された仮説を検証するために、情報を収集し、それを認識論的枠組みにそって分析解釈することにとどまらず、問題意識から幅広く情報を収集し、一定の法則にしたがってそこから理論や仮説を産出することも重要な知的活動であろう。社会調査特論ではヒューマンサービスにおける社会調査の枠組みと方法について学ぶ。
到達目標	1. 大学院での研究する意味を説明できる。 2. 代表的な研究方法について類別できる。 3. 修士研究のための道筋を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場義貴、横尾恵美子、福田俊子、大友信勝 第 1 回：ガイダンス 実践と調査研究の関連 大場 第 2 回：研究デザインと研究計画 大場 第 3 回：量的調査について 横尾 第 4 回：調査票の作成方法 横尾 第 5 回：データ解析Ⅰ 横尾 第 6 回：データ解析Ⅱ 横尾 第 7 回：社会科学と質的調査 福田 第 8 回：データを収集する（インタビューと参与観察） 福田 第 9 回：データを分析する①（グラウンデッド・セオリー） 福田 第 10 回：データを分析する②（事例研究） 福田 第 11 回：研究のルールと研究倫理 大場 第 12 回：社会事業史における語る歴史、聞く歴史 大友 第 13 回：底辺に向かう志を貫く人物史の素描 大友 第 14 回：「女工哀史」はどのように書かれたか 大友 第 15 回：まとめ 大場

学修方法	「講義」を中心とするが、適宜「グループワーク」、「討論」、「発表」による学修も行う。
評価方法	中間レポート 50%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。
指定図書	なし
参考書	社会科学の考え方―認識論、リサーチ・デザイン、手法―：野村 康（著）；名古屋大学出版会
事前・事後学修	事前学修：事前課題を行っておく。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。

科目名	人体構造・機能学特論		
科目責任者	顧 寿智		
単位数他	2単位（30 時間） 選択 秋		
科目の位置付	（大学院共通 DP 3）幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を習得し、科学的かつ論理的な思考力を身に付けている。		
科目概要	医療現場経験を持つ専門家による特別講義および浜松医科大学での実習見学などをおして、臨床に役立つ人体構造・機能学について学習する。幅広い関連知識、方法を修得する。		
到達目標	1. 人体の正常な構造・機能を理解する。 2. 人体の構造・機能に基づき病態を理解する。 3. 病気の回復と人体構造・機能の関連性を理解する。 4. 人体の構造・機能について、自分の研究の基礎を築く。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつることができる。		
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞		＜担当教員名＞
	第 1 回：オリエンテーション、細胞生物学・発生学概論		顧寿智
	第 2 回：呼吸器の構造・機能・病態	丹羽宏	顧寿智
	第 3 回：泌尿器の構造・機能・病態	三橋孝	顧寿智
	第 4 回：聴覚平衡感覚器の構造・機能・病態	石崎久義	顧寿智
	第 5 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ		顧寿智
	第 6 回：神経系の構造・機能・脳性麻痺・てんかん	岡西徹	顧寿智
	第 7 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ		顧寿智
	第 8 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ		顧寿智
	第 9 回：浜松医科大学での実習見学		顧寿智
	第 10 回：浜松医科大学での実習見学		顧寿智
	第 11 回：浜松医科大学での実習見学		顧寿智
	第 12 回：動物実験		顧寿智
	第 13 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ		顧寿智
	第 14 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ		顧寿智
	第 15 回：まとめ		顧寿智

学修方法	講義、ディスカッション、発表など。条件を満たせば 遠隔授業を受講することができる。
評価方法	授業への参加態度、ディスカッション(80%)、その他(20%)を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	課題の解説、リアクションペーパーのコメント
指定図書	なし
参考書	「The Essentials of Anatomy and Physiology」10th Ed. Gerard J. Tortora, Bran Derrickson Visible Body（アプリ）
事前・事後学修	各テーマに関連する基礎知識を事前学修すること。講義内容、配布資料、課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	心理学特論
科目責任者	坪井 裕子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる
科目概要	本講義は、対象の心理学的理解と心の援助のあり方について各自の臨床実践を心理学の視点から考察することを目的とする。具体的には、近年課題となっている子どもの臨床的問題の諸側面をテーマに取り上げる。それらの問題について、基本的な知識を習得し、様々な角度から理解を深めるとともに、子どもの心理療法などの支援について学ぶ。
到達目標	1. 子どもの臨床的問題についての基本的な知識を習得すること 2. 子どもの心理臨床実践に対する理解が深まること 3. 子どもの支援に関わる際の基本的姿勢を習得すること を目標とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回. 子どもの臨床的問題（1）イントロダクション 第2回. 子どもの臨床的問題（2）不登校 第3回. 子どもの臨床的問題（3）いじめ 第4回. 子どもの臨床的問題（4）自殺 第5回. 子どもの臨床的問題（5）非行 第6回. 子どもの発達臨床的問題（1）発達障害とは 第7回. 子どもの発達臨床的問題（2）自閉症スペクトラム 第8回. 子どもの発達臨床的問題（3）AD/HD 第9回. 子どもの発達臨床的問題（4）学習障害 第10回. 子どもの虐待（1）現状と支援体制 第11回. 子どもの虐待（2）子どもの心身に及ぼす影響 第12回. 子どもの虐待（3）子どもへの支援の実際 第13回. 事例検討（1）…受講生のプレゼンテーションを中心としたグループワーク 第14回. 事例検討（2）…受講生のプレゼンテーションを中心としてグループワーク 第15回. まとめ：子どもを取り巻く新たな課題

本講義を通して、将来の臨床実践における心の援助について各自が具体的に考える機会にしたいと思っています。したがって、積極的な姿勢で受講してくださることを期待しています。

学修方法	内容にそって、講義、グループワーク、合同事例検討会などによって進める予定。
評価方法	講義中の小レポートおよび受講態度 50%、最終レポート 50%
課題に対するフィードバック	講義中の小レポートについては、次の回でコメント等、フィードバックします。
指定図書	プリント配布予定。
参考書	安部計彦・加藤曜子・三上邦彦編著「ネグレクトされた子どもへの支援 理解と対応のハンドブック」明石書店
事前・事後学修	毎日の授業内容を復習（30 分程度）しておくこと。事例検討については、事前の資料作成（かなりの時間を要すると思います）を課題とする予定。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教育方法学特論
科目責任者	藤崎 和彦
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる
科目概要	1. 近年の医学教育改革の動向について理解し、近年医学教育で急速に導入されている PBL、OSCE、ロールプレイなどについて、演習を通して学習する。 2. 医療系教育における教育改革・生涯学習と多職種連携の取り組み。
到達目標	1. 受講者が近年の医学教育改革の動向について述べることができる。 2. 受講者が自分の担当するカリキュラムの計画作りができる。 3. 受講者が学習者中心の教育態度の重要性を理解する。 4. 受講者が医療専門職の育成に関する教育方法学を理解したうえで、多職種連携に関わる教育方法ならびに PBL 課題、OSCE の工程評価表が作成できる。 5. 受講者が学生及び新人に対する事例検討、臨床（実習）指導の基本技能を修得できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1-5 回：ワークショップ形式による演習Ⅰ 近年の医学教育改革の動向 カリキュラムプランニングⅠ、PBL、ロールプレイ、skill lab などに 関する概要 第 6-10 回：ワークショップ形式による演習Ⅱ カリキュラムプランニングⅡ、OSCE、模擬患者など 第 11-12 回：理学・作業療法学、看護学、社会福祉学領域における教育改革の取り組み 第 13-15 回：PBL、OSCE ならびに多職種連携による事例検討、臨床（実習）での教育方法 <担当教員名> 藤崎和彦 藤崎和彦 内山靖 内山靖

学修方法	藤崎) 講義、グループワーク、討論、発表を含むワークショップ形式で行います。 内山) 「講義」「グループワーク」「討議」「発表」
評価方法	授業参加、レポートなどにより、総合的に評価する (100%)。
課題に対するフィードバック	藤崎) 初回の講義後レポートに対するフィードバックを、次回講義時に行います。 内山) 当日講義中の演習課題・討議を後の講義時間で解説・フィードバックします。
指定図書	なし
参考書	(藤崎) 『医学教育マニュアル〈1〉医学教育の原理と進め方』 日本医学教育学会教育開発委員会編 篠原出版新社 『医学教育 ABC—学び方, 教え方』吉田一郎訳、篠原出版新社 『実践 PBL チュートリアルガイド』吉田一郎、大西弘高編、南山堂 『基本的臨床技能の学び方・教え方』 日本医学教育学会臨床能力教育ワーキンググループ編、南山堂 『医学医療教育用語辞典』日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編、照林社 『医療プロフェッショナル ワークショップガイド』 日本医学教育学会 FD 小委員会編、篠原出版新社 (内山) 『理学療法教育論』奈良勲編、医歯薬出版株式会社、2004 『基本的臨床技能の学び方・教え方』日本医学教育学会編、南山堂、2002
事前・事後学修	事後学習用の参考文献を示します。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学英語特論
科目責任者	Richard MacLean
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	7. 学際的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家と交流することができる
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読んで医療英語に慣れ、各自の専門分野の論文を読みながら医療系論文の概要と特徴を習得する。
到達目標	1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。 2. 英語文献の基本的表現や用語に慣れる。 3. 医療系論文の概要と特徴を学び、専門分野の論文を読む。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回 : Guidance 第 2 回 : Difference between English and Japanese 第 3 回 : Difference between English and Japanese 第 4 回 : Lecture on Medical Terms and Expressions 第 5 回 : Reading of English Articles 第 6 回 : Reading of English Articles 第 7 回 : Reading Exercise and Presentation 第 8 回 : Outline of English Papers and APA 第 9 回 : Reading Papers 第 10 回 : Reading of Medical Papers 第 11 回 : Reading of Medical Papers 第 12 回 : Reading of Medical Papers 第 13 回 : Writing Exercise 第 14 回 : Writing Exercise 第 15 回 : Summary

学修方法	講義と演習、小テスト
評価方法	授業参加活動 40%、提出物など 60%
課題に対するフィードバック	小テスト返却、論文読解発表へのコメント、英作文課題へのコメント
指定図書	Concise Rules of APA Style, Sixth Edition (Concise Rules of the American Psychological Association (APA) Style) (English Edition)
参考書	随時提示する
事前・事後学修	事前学修として毎時間提示する事前課題を行うこと。 事後学修として授業内容を復習して理解を深めること。目安時間 40 分。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：5706 研究室 メール：maclean@seirei.ac.jp

科目名	マネジメント論
科目責任者	武居 敏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる 6. 他の専門職者、研究者や学生との連携・協働し、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組むことができる
科目概要	福祉・医療サービスの経営管理を中心に置きながら、非営利組織のマネジメントを理解し、マネジメントの実践への応用について学ぶ。
到達目標	マネジメントとは何かを学修する。 福祉・医療サービスの経営管理を中心に、非営利組織のマネジメントを学修する。 マネジメントの理論を身につけ、その実践への応用力を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：マネジメントの概要 科目の目標、総論、担当事例の検討と決定 講義・グループワーク 第 2 回：組織と経営、経営戦略 組織と経営の基礎的内容、経営戦略とは 講義 第 3 回：サービスマネジメント・リスクマネジメント① サービスマネジメントの基本 マーケティング、環境分析、サービスの評価、広報等 講義 第 4 回：サービスマネジメント・リスクマネジメント② サービスマネジメント・リスクマネジメントに関する事例研究 第 5 回：多職種連携 社会福祉、医療等の分野における多職種連携と地域共同の在り方 講義 第 6 回：モチベーション 個人と集団の行動、モチベーション理論 講義・グループワーク 第 7 回：コミュニケーション 個人と集団の行動におけるコミュニケーション 講義 第 8 回：メンバーシップ・リーダーシップ① リーダーシップに関する体験学習 グループワーク 第 9 回：メンバーシップ・リーダーシップ② メンバーシップ・リーダーシップの基礎理論 講義 第10回：人事管理・労務管理 ヒューマンリソースマネジメントの基礎、労働法と労務管理 講義 第11回：人材育成 キャリアパスと能力開発 講義・演習 第12回：財務管理① 財務管理の基礎、計算書類 講義 第13回：財務管理② 実際の計算書類を通して行う経営分析 事例研究 第14回：経営管理の実際 経営管理者に経営戦略、事業計算、決算書により経営の実際を聞く 講義 第 15 回：まとめ 中期経営計画と短期経営計画

学修方法	講義、討議を中心にし、必要に応じてグループワークや経営管理者との討議を行います。
評価方法	授業態度 60%。レポート 40%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却時。課題に対するフィードバック方法はその都度講義の場面で提示します。
指定図書	「グロービスMBAマネジメントブックⅠ」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社
参考書	「経営学入門」榊原清則 日経文庫 「非営利組織のマーケティング戦略」フィリップ・コトラー 他 第一法規 「グロービスMBAマネジメントブックⅡ」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 「SWOT分析コーチングメソッド」嶋田利広 マネジメント社 「グロービスMBAリーダーシップ」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 「仕事と人間性」F・ハーズバーグ 東洋経済新報社 「組織行動のマネジメント」S・P・ロビンズ ダイアモンド社 「マネジメントの教科書」E・T・ライリー ダイアモンド社 「リーダーシップ入門」金井壽宏 日経文庫 「人的資源管理 第2版」奥林康司他 中央経済社 「キャリア・アンカー」E・H・シャイン 白桃書院 「社会福祉施設経営管理論」2019 浦野正男編 全社協 他
事前・事後学修	事前学習：前回の講義時に課題を提示し、次回講義時の討議、グループワークの資料とする。 事後学習：授業を振り返り、課題を整理する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	福祉工学論
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	DP(2)．専門並びに近接分野(領域)の高度な知識・技能を習得し、科学的かつ論理的な思考力を身に付けている
科目概要	保険、医療、福祉分野に福祉工学を導入することの意義を学び、工学技術を導入すると人の技ではできないことができて、さらに新たな価値を生むことを理解する。
到達目標	1. 身体を計測し、解釈し、表現することを福祉工学で考える契機とする。 2. 看護、介護動作の意味と負荷軽減の利点と欠点を福祉工学で考える契機とする。 3. 我々は人や社会の影響を受けており、これをサービスの提供ととらえそのサービスが心と身体の満足や健康を作ること福祉工学で考える契機とする。 4. 職業を福祉工学の視点を含めて福祉工学で考える契機とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： 導入ー福祉と福祉工学／道具の歴史、技術開発の歴史そしてロボット 第2回： 医工学機器と福祉工学機器の発展とその相違点 第3回： 言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連) 第4回： サービスを受けて生活していること（システム工学の考え方） 第5回： 心の満足・身体の満足と健康 第6回： 身体障害に対する支援ー（排泄の意味と排泄支援、ベッド他） 第7回： 身体以外の不足状態に対する支援（コミュニケーション支援） 第8回： 身体以外の不足状態に対する支援（認知症者の支援、独居者の支援） 第9回： 看護、介護におけるボディーメカニクス 第10回： 生活の中に採りいれたいボディーメカニクス／重力の恩恵／廃用症候群 第11回： 歩行、睡眠からわかる健康様態の変化 第12回： 歩行様態から観える骨格筋の生理学(身体を電気で観る／力学で観る) 第13回： 環境の見直しと健康躍進へ（食、住まい、生活習慣に並存する健康要素と非健康要素） 第14回： 環境の見直しと健康躍進へ（社会環境、自然環境に並存する健康要素と非健康要素） 第15回： 寝たきりにさせない、しない、ならないために／まとめ

学修方法	スクリーンを使った講義。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢) 50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によつての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活、職と健康について視点を拡げて考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにする手段とする工学の視点を採り入れる。このため日々問題意識と意欲をもって、かつ、体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	教育工学特論
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. 専門並びに近接分野（領域）の高度な知識・技能を習得し、科学的かつ論理的な思考力を身に付けている 3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる
科目概要	教育工学は工学的なアプローチを用いて学びを支援する学問であり，教育観や学習観の変遷に合わせて発展してきました．特に近年の ICT 機器やネットワークの発達により，教育工学の知見や成果が教育現場に急速に浸透しています．本科目では，教育工学の全体像を鳥瞰し，ICT 機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の歴史や現状を学びます．更に，学習効果を上げるための教育方法や課題について議論します．
到達目標	1. 教育工学の概要や対象とする分野を説明できる． 2. ICT 機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の方法を説明できる． 3. 効果的な教育方法を独自の視点で考案することができる．
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回 教育工学とは何か，教育工学の研究対象 第 2 回 客観主義（行動主義，認知主義）的な学習観 第 3 回 CAI，知的 CAI 第 4 回 構成主義的な学習観 第 5 回 e ラーニング 第 6 回 アクティブラーニング 第 7 回 LMS (Learning Management System) 第 8 回 学力評価 第 9 回 e ポートフォリオ 第 10 回 ルーブリック 第 11 回 インストラクショナルデザイン (1) 第 12 回 インストラクショナルデザイン (2) 第 13 回 情報教育・情報モラル教育 第 14 回 プログラミング教育 第 15 回 まとめ

学修方法	ショートレクチャー ⇒ ディスカッション ⇒ プレゼンテーション ⇒ まとめを繰り返しながら授業を進め、最後にレポートやリアクションペーパーを作成する。
評価方法	レポート課題（60%）、プレゼンテーション（30%）、リアクションペーパー（10%）により評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては即時フィードバックを行い、レポート課題やリアクションペーパーは学習管理システムを用いて授受を行う。リアクションペーパーに書かれた意見や質問には個別に対応する。
指定図書	なし
参考書	適宜プリントの配布や参考文献の紹介を行う。
事前・事後学修	事前学修として毎時間提示する事前課題を行うこと。事後学修として授業内容を復習して理解を深めること。目安時間 40 分。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。